

月日	国の対応	道・伊達市・虻田町・壮瞥町等の対応
03月28日	12:00 国土庁防災局が情報対策室設置	03:00 道が有珠山火山活動災害対策連絡本部設置 07:45 道警へリ入山者なし、噴煙異常なし確認 08:30 1市2町が災害対策本部設置 ～ 10:00 15:00 道が災害対策連絡本部設置
03月29日	11:00 災害対策関係省庁連絡会議 11:30 関係省庁局長級会議 伊達市・虻田町・壮瞥町へ災害救助法適用 国土庁防災局が情報先遣チームを派遣	09:30 道警が災害警備本部設置 10:30 道が災害対策本部設置 13:00 壮瞥町避難勧告（温泉地区、219名） 13:30 伊達市避難勧告（有珠・長和地区、4,924名） 15:00 虻田町避難勧告（温泉地区、5,842名） 15:20 道は避難活動に係わる自衛隊災害派遣要請 16:00 道防災会議地震火山対策部会火山専門委員会開催 16:30 洞爺湖温泉街の全宿泊客が帰る 18:30 1市2町は避難勧告を 避難指示 に切り替え 18:58 消防庁緊急消防援助隊の派遣
	18:55 有珠山現地連絡調整会議設置（31日9時まで計5回開催） 構成機関：現地对策本部長、内閣危機管理監、道副知事、気象庁、海上保安庁、自衛隊、その他国の機関、北海道、胆振支庁、その他道の機関、消防関係機関、関係市町、N T T東日本北海道支店、日本赤十字社北海道支部、日本道路公団北海道支社、J R北海道、北海道電力、北海道医師会等	
03月30日	国土庁総括政務次官を現地派遣	10:50 虻田町（月浦地区）避難区域拡大 23:30 対象住民全員の避難を確認
03月31日 13:07頃 西山西麓 で噴火	14:00 関係閣僚会議 14:30 平成12年有珠山噴火 非常災害対策本部 設置 15:00 伊達市に 現地对策本部 設置（H7災対法改正後初） 第1回非常災害対策本部会議 16:00 政府調査団 派遣（団長：国土庁長官） 気象庁は地震噴火予知連絡会に有珠山部会設置	8:30 有珠・長和地区へ農作業のため一時立入り 13:21 伊達市役所に「伊達災害ボランティアセンター」開設 虻田町本町等の地区に緊急避難 噴火による 人的被害なし 活動状況に合わせて、避難指示区域の見直し、避難所の移動を実施避難住民約13,000名、内避難所に約5,000名 13:25 伊達市関内地区に避難勧告 17:15 洞爺駅から臨時避難列車を運行
	19:15 有珠山噴火非常災害現地对策本部合同会議（以後1日2回開催）	
04月01日		15:00 伊達市関内内地区の避難勧告解除
04月02日		壮瞥町が災害生活バス運行開始 伊達市長和地区の避難指示を一時解除（2,228名） 16:00 壮瞥町滝之町、立香地区の自主避難呼びかけ解除（340名）
04月03日		11:00 虻田町対策本部が豊浦町へ移転 12:40 有珠山動物救護センター開設
04月04日		9:00 壮瞥町が避難指示地域のペット救出
04月06日	(4/2建設省、北開庁、道庁による有珠山土砂災害対策専門家チーム設置)	

資料 2 2000年噴火時各機関の対応・避難状況

04月07日	15:00	第2回非常災害対策本部会議		東有珠・南有珠町へ畑作状況確認のため一時立ち入り
		<有珠山噴火災害対策に関する基本方針>		第2回非常災害本部会議決定
04月08日		4/8現在21省庁・JR等で約220名、及び自衛隊・警察・消防後方支援部隊約2,000名	8:30 15:30	東有珠町の家畜給餌作業のため一時立ち入り 壮瞥町の避難住民(60名)が 短時間帰宅 (1時間限定) ホタテ作業が海上の状況から中止
04月09日			10:00 10~14時	ホタテ養殖業者111名が稚貝管理のための作業 壮瞥町(101名)、虻田町(31名)で短時間帰宅
04月10日	09:00	第20回有珠山噴火非常災害現地対策本部合同会議	9~16時	ホタテ養殖管理波高く中止 伊達市(190名)、壮瞥町(3名)で 一時帰宅 虻田町(25名)で短時間帰宅
04月11日			9~16時	ホタテ養殖管理波高く中止 伊達市(166名)、壮瞥町(5名)で一時帰宅 虻田町(441名)で短時間帰宅(各区60~90分) これ以降も随時実施。
04月12日			夜	予知連見解を受けて、道と1市2町は避難指示区域の見直しを協議。
04月13日			09:00 09:00 12:00	規制海域の緩和(沿岸から5km→虻田町板谷川河口から半径1kmの範囲)、ホタテの養殖作業は本格的に再開される見通し 伊達市と壮瞥町の一部で、 虻田町の一部で、 避難指示区域の一時解除 、避難者計13,039名のうち4,749名が解除対象。 国道37号線なども昼間のみ通行止め解除
04月14日				4市町に仮設住宅500戸を建設・来月8日に完成へ(道発表)
04月15日	16:20	森首相が現地視察。 2つの火口を中心とする半径3km以内、高度3,000m以下の空域を飛行しないよう新千歳空港事務所からノータムを発行(4/3からの5km以内を緩和)		
04月16日		現地対策本部合同会議を1日1回9時開催に		
04月17日			14:50	伊達市内の虻田町民の避難所を9カ所から3カ所へ、長万部の虻田町民も虻田、豊浦町の施設へ10時現在避難対象者計8,290名避難所に4,117名(自主避難者128人含) やや大きな規模の噴火、上空からの監視視活動が一時困難になったため、対策本部は一時帰宅を中止。 道が取りまとめている、公営住宅優先入居の受け付けが全道R(1,139戸)。

04月18日		14:30	洞爺湖温泉街からの避難住民が洞爺湖湖上から被災地を視察(10～11時174人、14～15時239人)。
04月19日	ヘリ空撮調査により、虻田町の14世帯に被災者生活再建支援法を適用		
04月20日	有珠山土砂災害対策検討委員会開催(室蘭市にて)	07:00 09:00 9時現在	虻田町の入江地区の一部7世帯12人、壮瞥町の壮瞥温泉を流れる流路工の東側の地区の31世帯86人、避難指示一時解除 避難指示対象者8,081人内避難所に4,231人(自主避難者110人含む) 洞爺湖でわかざぎ親魚捕獲作業始まる(2隻7人) 壮瞥町住民を対象に仮設住宅及び公営住宅の入居申し込み受け付けを開始
04月21日	建設省と北海道は、無線で遠隔操作できる無人重機を使って新たな遊砂池などを板谷川と西山川に建設することを決めた。建設省などは道と有珠山土砂災害対策検討委員会を開催		
04月22日			虻田、壮瞥町で避難指示地区での日中帰宅を中止。内浦湾沿いを走る国道37号線も、虻田町旭町ー伊達市有珠町(約2.6km)で通行止め。
04月23日			道警は消防と協力して、避難指示区域内の居住者に避難を呼びかける。
04月24日	5月上旬には伊達・虻田・壮瞥3市町の大規模避難訓練を実施することを発表		板谷川の流域で、泥流を検知するセンサーの設置、遊砂池の容量を増やすための掘削、土のうによる堤防の補強などの被害拡大防止作業にとりかかる(道など) 一時帰宅を認められない い泉地区住民62人がバス車上視察
04月25日	北海道産業、経済全般への影響を軽減するため、北海道開発庁長官の私的懇談会である「北海道活性化懇談会」の第1回会合を開催 国道230号の代替路線として、迂回ルートとなっている道道豊浦洞爺線と道道豊浦京極線の一部区間を国道に編入、直轄事業として整備(建設省)		避難指示対象者8,081人内避難所に3,932人 避難指示区域の虻田町洞爺湖温泉町に無断帰宅中の男性の救助活動が行われ、自衛隊の装甲車に乗り込んだ警察官らが9時半すぎに救出。
04月26日	第40回有珠山噴火非常災害現地対策本部合同会議		壮瞥温泉地区で旅館3軒が営業再開・GW中の宿泊を条件付きで受け入れ 避難対象者8,081人中避難所に3,964人(8時現在、自主避難者81人含む)
04月27日		11:30～	不通であったJR室蘭線洞爺～長和間の貨物列車運転再開(旅客列車は29日から)、1日1～2往復 現地本部合同情報伝達訓練(～11:55参加1,040名) 板谷川泥流対策のための有珠山土砂災害検討委員会(事務局:室蘭土木現業所)、警戒基準雨量を5mm/h、連続20m

資料 2 2000年噴火時各機関の対応・避難状況

				mとした。 伊達市が一時避難解除地区(有珠・長和地区)の再避難計画を作成 ホタテ操業時間を07～18時に延長
04月28日		閣議で、H12年度予算の予備費から約13.8億円を拠出することを決定		噴火活動の情報を電話音声で提供する テレホンサービスを開始(国土庁、郵政省、気象庁) 道は豊浦町82戸、壮瞥町84戸の仮設住宅が5/2に完成5日に入居開始と発表
04月29日				JR室蘭線洞爺～長和間の旅客列車運転再開 昭和新山の麓の土産物店や熊牧場が営業再開
04月30日			16:00	避難対象者8,081人中避難所に3,879人、自主避難者82人含む)
05月01日				4/3から豊浦町に避難していた虻田町役場機能を虻田町役場庁舎へ戻し業務を再開 板谷川での無人化施工機械による工事開始
05月02日		現地対策本部合同会議幹事会を設置(議長:胆振支庁)	09:00	壮瞥町壮瞥温泉地区の70世帯156人へ、避難指示の解除。壮瞥町の避難指示対象は75世帯105人となる、うち避難所への避難者は12名 1市2町で避難指示の一時解除地区を対象に、避難情報等の伝達のため、防災行政無線戸別受信機を配備、運用開始。 西胆振8市町村町が噴火後初の連絡会議
05月05日			16:00	洞爺湖の遊覧船が、運航を再開(洞爺村側で) 避難指示対象3,609世帯7,925人、うち避難所へ3,818人(自主避難118人含む)
05月06日		第50回有珠山噴火非常災害現地対策本部合同会議	18:00	壮瞥町滝之町に完成した84戸の仮設住宅に入居開始(254人)、利用期間は最大2年、家賃無料、光熱費負担 壮瞥町の避難所を4→2カ所に 壮瞥町公民館で岡田・宇井教授が「火山活動の現況報告会」で説明、虻田町企画、約250名参加)
05月07日				仮設住宅への入居希望数は1,454世帯(虻田町) 虻田町の避難住民を対象にした仮設住宅と公営住宅の第1次入居者を決定。 申し込みのあった1,454世帯のうち、仮設住宅に216世帯、市営住宅148世帯、道営住宅10世帯の計374世帯。10日から入居可能。 ボランティア累計登録者1,878名、活動人員7日は88名
05月08日	16:00	非常対策現地本部を伊達市役所内から伊達市有地内仮設庁舎に移設	12:00	有珠山噴火と防災に関する情報提供がメインのラジオ局FMレイクトピアが本放送開始 8日現在、仮設住宅へ60世帯入居済み

05月09日		新現地対策本部開所	
05月10日		現地対策本部合同会議を毎週月曜開催	虻田町の避難住民を対象とした仮設住宅、公営住宅へ入居開始 伊達市は北海道災害義援金募集配分委員会から配分された有珠火山活動災害義援金を対象住民に配布。
05月11日			避難指示対象3,609世帯、うち避難所は3,774人、避難所数全26箇所（伊達市3、室蘭市2、虻田町3、豊浦町6、長万部町7、洞爺村3、壮瞥町1、登別市1）
05月12日			09:00 壮瞥町と虻田町の洞爺湖温泉地区の一部で、避難指示区域の解除、避難者計7,925名のうち、996名が対象 避難指示海域を北緯42度32.2分、東経140度46.5分を中心とする半径800mの円内海域に変更 洞爺湖の避難指示領域を壮瞥町虻田町行政区域境界～虻田町月浦（国道230号と道道洞爺湖虻田線の交点）と弁天島を結ぶ湖上に変更
05月13日			1市2町で12日までに77事業所が計656人の従業員を解雇、うち241人は再雇用の予定なし
05月14日			長万部町7箇所の避難所のうち、4箇所を廃止して虻田町本町のあぶたふれあいセンターに集約 虻田町月浦地区に病院や小中学校などを仮設する他、商店街も整備し新たな街を造る方針をあきらかにする
05月16日			虻田町洞爺湖温泉街、泉地区の一部などの住民868世帯について30分に限った短時間帰宅を実施、16日は32世帯32人、今後も1日36人を限度に実施
05月17日		噴火による漁船被害を想定し、第一管区海上保安部の緊急救助訓練を虻田町沖で実施	国道37号虻田町入江～高砂町までの1.7km区間の通行可能時間を1時間延長し、午前5時～午後7時に変更
05月18日		有珠山周辺3市町避難訓練にあわせて情報伝達訓練実施	有珠山周辺3市町避難訓練を実施、対象は避難指示一時解除地域住民（住民984人、道警、自衛隊など約720人、車両126台参加）
05月19日		虻田町の洞爺湖温泉街について、復興プランの検討に政府として着手すると発表（国土庁）	一時帰宅可能時間をカテゴリー3で2→5時間、カテゴリー2で90分→2時間に延長、カテゴリー3ではマイカー使用可能に
05月22日		今回の噴火活動を「平成12年（2000年）有珠山噴火」と命名（気象庁）	
05月23日			壮瞥町が観光客を安全に受け入れるためのガイドラインまとめる
05月24日			虻田町泉・温泉地区の一部で避難指示解除、避難者計6,929名のうち1,876名が対象 カテゴリーの領域見直し開始 国道37号の交通規制を全面解除

資料 2 2000年噴火時各機関の対応・避難状況

			噴火湾側の避難指示海域を全面解除 虻田町板谷川下流の避難指示解除区域 について、今後降水量20mm/hまたは連 続50mm以上の場合、避難勧告をだすこ ととする
05月25日			避難指示対象者4956人、うち避難所に 2,263人、避難所数全24箇所（伊達市 3、室蘭市2、虻田町5、豊浦町6、 長万部町3、洞爺村3、壮瞥町1、登 別市1）
05月26日		自衛隊の噴火湾沖合待機を中止な ど配備体制見直し	洞爺湖温泉東側の一部（226世帯、398 名）地域をカテゴリー1からカテゴリ ー2に変更 仮設住宅を虻田、豊浦などの各市町村 で350戸程度を建設すると北海道が発表
05月28日			長万部町3箇所、豊浦町3箇所、登別 市1箇所の避難所閉鎖 虻田町の一部で避難指示区域の解除、 避難者計4,956名のうち1,637名が対象
05月29日			噴火以降豊浦町と長万部町で臨時教室 を開いてきた虻田小中学校が虻田小で 授業再開 避難所数全19箇所（伊達市3、室蘭市 2、虻田町6、豊浦町4、洞爺村3、 壮瞥町1）、避難所の人数は1,763名に
05月31日		現地対策本部が洞爺湖温泉地区と 泉地区北部の道路状況などの特別 現地調査を実施	
06月01日			虻田町が「有珠山復興災害対策室」を 設置、復興に向けた作業に着手 虻田町主催で岡田、宇井教授を講師と して火山活動の現状を知らせる報告会 を開催 JRの列車運行時間の拡大、特急列車 の運行再開
06月03日			洞爺湖温泉地区の道道2路線800mにつ いて除灰作業開始 虻田町泉・温泉地区の一部で、避難指 示区域の解除、避難者合計3,319名、う ち642名が対象
06月04日			避難所の人数は981名に
06月05日		国土庁長官視察	避難指示対象者2,677名、うち避難所に 905名、避難所数全18箇所（伊達市3、 室蘭市1、虻田町7、豊浦町4、洞爺 村3）
06月07日			虻田町泉地区の一部で避難指示解除、 避難者計2677名のうち251名が対象 洞爺湖温泉8区の一部がカテゴリー2 →カテゴリー3に 危険区域内の除灰が終了し洞爺湖温泉 街の東西の通り抜けが可能に 道路公団が虻田洞爺インターチェンジ 付近の被害調査開始

資料 2 2000年噴火時各機関の対応・避難状況

06月08日		災害見舞金第2回配分開始 JR室蘭線が全面復旧
06月09日		虻田町358戸の仮設住宅選考会を7日開催、9日決定通知発送 虻田町泉地区下水道地下トンネルを調査、内部に崩落や断層確認
06月10日	無人重機による西山川の泥流除去作業開始（建設省）	有珠山外輪山の避難指示を一時的に解除、ただし、有珠火山防災会議協議会の「災害危険区域」（昭和62年）に変更がないため、ロープウェイ山頂駅周辺と展望台、散策路以外は立ち入り禁止 虻田町月浦の仮設住宅140戸への入居開始
06月17日		虻田町洞爺湖温泉地区の一部で避難指示解除、避難者計2426名、うち97名が対象
06月18日		室蘭市と洞爺村の避難所を整理、廃止 避難所全12箇所（伊達市2、虻田町7、豊浦町3） 北海道が避難住民への生活費支給、商工者への支援を柱とする災害対策事業の概要をまとめた
06月20日		壮瞥町が観光施設などに掲示する緊急避難マップを作製
06月22日		虻田町が「2000年有珠山噴火記念誌」刊行決定
06月23日		北電虻田発電所が運転を再開
06月26日		洞爺湖温泉の2、5、7、8区の一部と人が住んでいない東側地区をカテゴリ1→2
06月27日		虻田町が有珠山噴火災害復興プロジェクトチームを設置 洞爺湖温泉地区の西側火口周辺に住む町民70世帯を対象に自衛隊装甲車による車上視察を実施
06月28日		避難所の人数は496名に
06月30日	現地本部での宿直体制を解除	7月3日までに5箇所の避難所を閉鎖すると発表、これにより避難所は虻田町に4箇所、豊浦町に3箇所
07月03日	官邸危機管理センター内の有珠山対応の官邸対策室を閉鎖	避難所人数は269名に
07月05日		虻田町洞爺湖温泉地区の一部で避難指示、避難者計2,329名のうち395名が解除対象
07月10日		避難所数全7箇所（虻田町4、豊浦町3）、避難者数187名
07月13日		有珠山ロープウェイが昭和新山ふもとからの運行再開
07月14日		虻田町洞爺湖温泉地区の一部で避難指示解除、避難者計1,934名のうち502名が対象
07月18日		虻田町洞爺湖部で避難指温泉地区の一部で避難指示解除、避難者計1,432名のうち285名が対象

資料 2 2000年噴火時各機関の対応・避難状況

			温泉街の幹線道路が1本につながる
07月19日		洞爺湖温泉地区の泥流警戒基準について決定	
07月20日			洞爺湖汽船による湖上遊覧が運行開始
07月23日			22日からの雨で警戒基準雨量をこえる 虻田町洞爺湖温泉町西側の一部地域の住民に自主避難を呼びかけ、併せて国道230号、道道洞爺湖登別線の一部通行止め 24日7時45分解除 豊浦町内の旧エイペックス社員寮など3箇所の避難所を廃止、虻田町内の避難所に統合（全4箇所）
07月24日		道知事の撤退要請を受け現地の自衛隊約250人とトラックなどの車両約130台を撤収、自衛隊法に基づく災害派遣活動は終了	避難所全4箇所（虻田町4）、避難所の人員78名 虻田町が長期間の避難生活をおくっている町民に洞爺湖温泉などのホテルの無料宿泊券を配布
07月28日			虻田町洞爺湖温泉地区の一部で避難指示解除、避難者計1,147名のうち769名が対象 虻田町で復興などに町民が意見を述べる「有珠山噴火災害復興町づくり懇談会」の初会合を開催 北海道防災会議火山対策専門委員会開催
08月01日			道南バスが洞爺湖温泉街を経由する2路線の運行を再開
08月06日			避難所全2箇所（虻田町2）、避難所の人員58名
08月11日		有珠山噴火非常災害現地対策本部合同会議（第61回）本日をもって現地対策本部を閉鎖	
08月19日			避難所数全2箇所（虻田町2）、避難所の人員30名
08月27日			13時にあぶたふれ合いセンター、18時にあぶた体育館を閉鎖、避難所がなくなる